

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力のお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

早産児動脈管開存症における
左肺動脈拡張末期血流速度と臓器血流パターンの関連

1. 対象となる患者さん

2022 年 5 月～2026 年 4 月の間に当院 NICU に入院された超早産児（在胎 28 週未満の早産のお子さん）とそのお母さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門 青木宏諭

3. 研究の目的と意義

動脈管開存症は、早産児にしばしば認められる病態であり、肺血流の増加や全身臓器血流の低下を介して、循環状態に影響を及ぼす可能性があります。動脈管開存症の評価には、心臓超音波検査による動脈管の大きさ、血流パターン、左肺動脈拡張末期血流速度などが用いられています。

一方で、動脈管開存症が全身の臓器血流にどの程度影響しているかについては、頭部や腹部の超音波検査で評価される前大脳動脈、上腸間膜動脈、腎動脈などの血流パターンから把握できる可能性があります。しかし、左肺動脈拡張末期血流速度で示される肺血流増加と、これらの臓器血流異常がどの程度関連しているかは十分に明らかではありません。

本研究では、早産児において、心臓超音波検査で得られる左肺動脈拡張末期血流速度と、頭部・腹部超音波検査で得られる臓器血流パターンとの関連を検討します。本研究により、早産児の動脈管開存症をより多面的に評価するための知見が得られることが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんの電子カルテや部門システムから収集し、生後 7 日以内に

同時に測定された左肺動脈拡張末期血流速度と臓器血流パターンを照らし合わせ、左肺動脈拡張末期血流速度が高い場合に、各臓器血流パターン異常がどの程度認められるかを解析します。

5. 使用する情報

診療情報：

- ①電子カルテ、部門システム内の患者さんの臨床データ：性別、出生週数、出生時体格、アプガースコア、病名、先天性疾患、生後7日間のバイタルサイン、超音波検査データ、治療内容、入院日数、合併症、転帰（生存、死亡）
- ②電子カルテ内の患者さんのお母さんの臨床データ：年齢、妊娠分娩歴、既往歴、産科的合併症、治療内容、分娩様式

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2030年12月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門 青木宏諭

住所：奈良県橿原市四条町840番地

電話：0744-22-3051

e-mail：hirosatoa@naramed-u.ac.jp